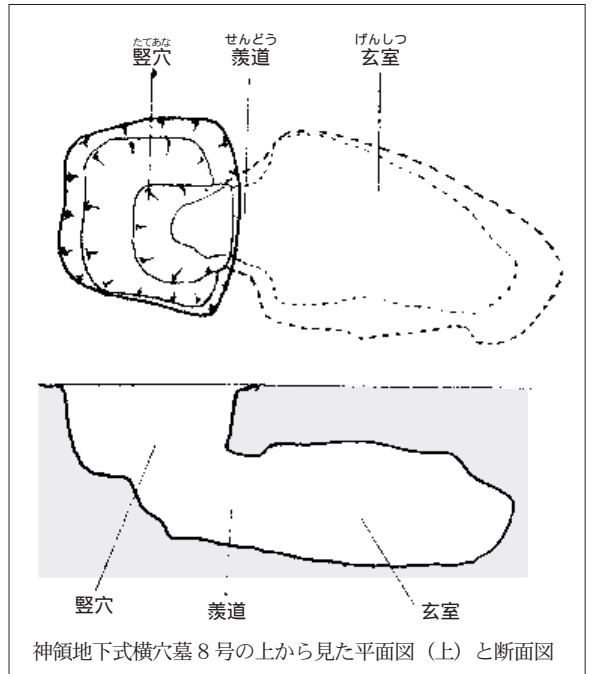


歴史を歩く③

町文化財紹介コーナー

ちかしきおうけつぼぐん 「地下式横穴墓群」



神領地下式横穴墓8号の上から見た平面図(上)と断面図

『地下式横穴墓』は、町内にも分布している墓であるが、あまり知られていない。

地下式横穴墓は、そのややこしい名前のとおり、まず地面に竪穴を掘り、そこからさらに横に穴を掘って地中に玄室をつくり、その中に被葬者を葬る構造の墳墓である。玄室への入口を板や土のブロック、石などで塞ぎ、竪穴を埋める。被葬者は閉鎖された地中の空洞に眠る形となる。(右図参照)

宮崎県では玄室内で複数の人骨が発見されることもある。本来、埋葬施設を横穴式にしたのは、追葬を可能にするためだったと言われている。そのため、当時はなんらかの墓標があったのかもしれないが、現在に至っては地上には何ら標示物もなく、畑地の耕作や耕地整理などの

工事の際、玄室の天井が陥没して偶然発見されることが多い。

横瀬古墳のように土を盛り上げて丘を造り、丘の頂上に人を埋葬するタイプの墓は『高塚墳』と呼ばれ、約1700年から1400年前までの300年間、いわゆる『古墳時代』と言われる時代に地域の有力者によって全国的に築造される。一方、地下式横穴墓は古墳時代の後半

(約1600年〜1400年前)に造られる。高塚墳が全国的に造られる一方で、地下式横穴墓は、宮崎平野部、霧島山麓の諸県盆地、志布志湾岸から肝属平野部のみ分布する。

地下式横穴墓では、鉄製の剣・矢じり、鎧や冑などの副葬品が発見されることも多く、時には見事な石棺を伴う場合もある。

る。被葬者は、それなりの身分を持つていたのだ。

―南九州を舞台に活動していた隼人族の墓ではないか?― かつては、そのようなイメージもあったが、地下式横穴墓の発掘調査件数の増加とそれに伴う研究で、隼人族とは関係ないという見方が最近では一般的になってきている。また、供えられている土器などから、地下式横穴墓の埋葬者の中には、高塚墳の埋葬者と同様に近畿地方の文化の影響を受けている者もいたことが分かってきた。

地下式横穴墓は神領古墳群や飯隈古墳群など、高塚墳が造られている場所にも群を成して発見される。武人埴輪(むじんはにわ)で有名になった神領10号墳にも、墳丘の周りに複数の地下式横穴墓が地下レーダー探査で確認されている。

ちなみに大崎町内では、飯隈古墳群や神領古墳群周辺だけでなく、岡別府集落の下堀遺跡や鷺塚集落など、現在のところ古墳が確認されていない場所でも発見されている。

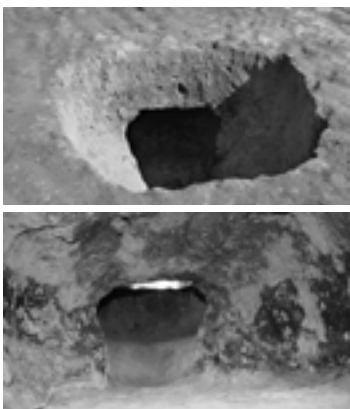
高塚墳と地下式横穴墓という異なるタイプの墓が、ほぼ同じ時期に同じ地域に築造されるという事実をどのように解釈するべきか。

そもそも墓の違いは、①地域の違い ②民族の違い ③身分の違い ④時期の違いと大きく4つの要素から生じる。地下式横穴墓について、これらの要素からそれぞれ研究が進められてきたものの、

地下式横穴墓の被葬者はどのような立場にあつて、高塚墳の被葬者とのような関係にあつたのか、いまだ明確にされていない。

人知れず地下に現存する地下式横穴墓―大隅地域に横瀬古墳のような大型前方後円墳が出現したその社会背景・社会構造を解明するうえで、重要な手がかりを握っている遺構なのである。

文・大崎町埋蔵文化財専門員(内村)



▲神領地下式横穴墓8号の竪穴(上)と玄室の様子(下)



▲飯隈地下式横穴墓で発見された人骨